

8880

自昭和十二年九月十三日
至昭和十二年九月十五日

其一火燒場小朱宅董陸宅附近ノ戦闘

9

1432

火燒場小朱宅董述片所近戰闘詳教目次

一戰闘前ニ於ケル彼我ノ態勢

一頁

一地形及在民地ノ狀態

二頁

一戰闘ニ影響ヲ及ボシタル天候氣象

三頁

一彼我ノ兵力、交戦セシ敵團豫非、將帥氏名

四頁

一編制裝備及素質訓練

一戰闘法

六頁

一戰闘經過

七頁

戰鬪前ニ於ケル彼我ノ形勢

楊行鎮ヲ攻略シタル聯隊ハ第二第一大隊ヲ第一線第三
大隊ヲ豫備隊トナシ東部空上、朱家宅ノ線ニ展開シ
爾後ノ攻撃ヲ準備シタリ

左歩兵第十八聯隊ハ概ネ同線ニ進出シアリタリ

聯隊ノ右翼方面ハ天谷支隊トノ間隙ニ我部隊ナク
翼側ヲ絶エス脅威セラル、狀況ナリ

敵ハ第三十二師ニシテ第一主抵抗地帯ヲ火燒場董

陸宅ノ線ニ設ケ頑強ナル抵抗ヲ試ミルモノ、如シ

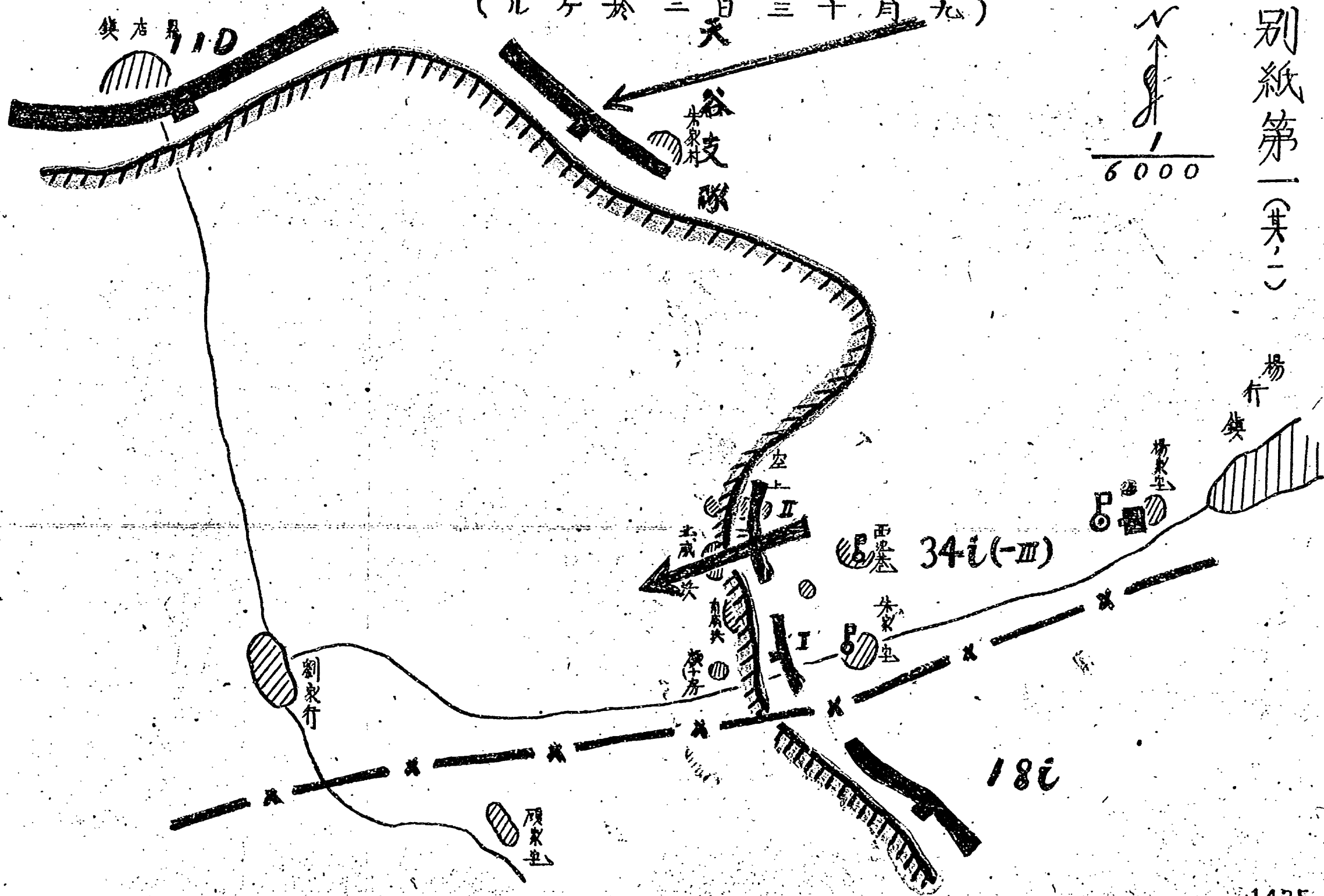
其ノ一部ハ北威浜、南威浜、顔十房ノ線ニアリ

彼我ノ態勢別紙要圖、如シ

9820

彼我態勢要圖

(九月三十日二於ヶル)



別紙第一(其二)

12

1435

地形及住民地ノ状態

地形一般ハ楊行鎮附近ト大差ナシ

綿畑多ク歩兵通過ハ自在ナリ車輛部隊ハ土地乾燥シアレハ通過容易ナルモ雨期ハ困難ナリ

「クリーク」ハ縱横ニ走り部隊ノ運動ヲ妨クルコト甚シ殊ニ車輛部隊ハ此「クリーク」ヲタメ繫駕搬送ヲ不可能ナラシメ分解搬送ヲ行ヘリ

然レ共水深ハ徒渉ヲ許シ橋梁ヲ用フルコトナク行動ヲナシ得タリ

8370

戦闘ニ影響ヲ及ホシタル天候氣象
特ニナシ

14

1437

2~11

彼我ノ兵力交戦セシ敵團隊將帥氏名編制裝備
及素質訓練

彼我ノ兵力

一敵王修身ノ率キル第三十二師(中央傍系旧馮玉祥
系)ニシテ其兵力約一萬ト稱ス

我カ兵力ハ戰鬥人員約一十八百名

ニ編成裝備

ニケ旅ヨリ成リ小銃七〇〇、輕機關銃三三四、

重機關銃一二、步兵砲三六、野山砲三六、其他

ヲ有ス

輕機關銃ハ「チエツク式」重機關銃ハ「マキシム」(獨
逸製)ヲ多數有ス

0240

素質訓練
訓練稍良好ニシテ戰鬥力強シ殊ニ射撃手ニ長ス

戰鬪法

戰鬪法ハ第一師ト大差ナシ

然レ共我砲兵ノ集中射撃間ニ於テスラ射撃ヲ繼續スル等ノ稍積極的戰法ヲナス

2. 逆襲ハ屢々行フモ射撃手ニ止ムルノミナリ

3. 防禦戰鬪トシテ特ニ注目スベキハ其ノ火網組織ノ極

メテ稠密ナルコトナリ

殊ニ側射斜射ノ配合ハ巧妙ナリ

「クリーク」ハ殆縦射スル如ク設備シマリ

戦闘經過

九月十二日午後九時受領セル旅團命令要旨左如シ

歩兵第二十九旅團命令 於塘灣旅團司令部

一敗退セル敵ハ尚北潘涇火燒場、王宅、寶家弄ノ線ニ在

リテ歩々抵抗ヲ持續シツ、アリ

ニ旅團ハ依然當面ノ敵ヲ追撃シ劉家行、顧家宅ノ線ニ

進出シ大場鎮ニ對スル攻撃ヲ準備スルト共三部ヲ以テ羅

店鎮方向敵ヲ攻撃セントス

三右翼隊ハ當面ノ敵ヲ攻撃シ劉家行ノ線ヲ占領シ大場鎮

方面ニ對スル攻撃ヲ準備スヘシ

四兩翼隊ハ明十三日午前五時ヲ期シ追撃前進ヲ再行スヘシ

特ニ本夜敵トノ接觸ヲ密ニスルヲ要ス

五歩兵第三十四聯隊第四中隊ハ明十三日午前五時迄ニハ
寺前村ニ至リ所屬部隊ニ復歸スヘシ

上野少將

午後九時三十分右旅團命令ニ基キ左記聯隊命
令ヲ下達セリ

歩兵第三十四聯隊命令 於楊家宅

一第一線兩大隊ハ本夕唐家衡西端及同地ヲ東南
走セル「クリーク」ノ線ニ達シ南北咸浜及顔十房ノ線ニ
停止セル敵ト相對峙シアリ

右側支隊ハ東部空上ニ進出シアリ

ニ右翼隊(第七中隊及第二機關銃一小隊第三大
隊缺、戰車第一中隊、工兵第一中隊(三分隊缺)ヲ屬

スハ明拂曉ヨリ攻撃ヲ再興シ劉家行西端ノ線ニ向ヒ
敵ヲ追撃セントス

攻撃手ノ重點ヲ本道方向ニ指向ス

攻撃手前進ハ午前五時トス

第二大隊(第七中隊、機關銃一小隊ヲ缺聯隊砲一小隊
ヲ屬ス)ハ予ノ爾後ノ指揮ニ屬セラレ第三大隊ハ旅團長
ノ直轄トス

三第二大隊ハ右第一線トナリ一部ヲ以テ本夜成可ク速カニ

唐家衡附近ニ在ル第三大隊ノ第一線ト交代シ明黎
明ヨリ重點ヲ右ニ保持シテ當面ノ敵ヲ攻撃シ火燒場
小朱宅ノ線ニ進出シ爾後ノ攻撃ヲ準備スヘシ

四第一大隊(配屬缺除故ノ如シ)ハ左第一線トナリ明黎明
元

20
2~15

1443

ヲ期シ當面ノ敵ヲ攻撃シ小朱宅、董陸宅ノ線ニ進出シニ。
爾後ノ攻撃ヲ準備スヘシ

五、第一線大隊ノ火燒場、董陸宅ノ線ニ對スル攻撃ハ砲
兵隊ノ協力ノ許ニ實施ス

其攻撃前進ハ別命ス

六、兩第一線大隊ノ戰鬪地境左ノ如シ

馮家巷北端—小朱宅南端—金家灣南端—

北店宅南端ヲ連ヌル線トス

七、第三大隊ハ唐家衡附近ノ第一線ヲ第二大隊ノ一部ト

交代シタル後明拂曉迄ニ唐灣ニ集結シ旅團直轄タ

ルヘシ

拂曉後第十二中隊ヲ其指揮ニ復歸セシム

豫備トナルヘシ

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

九月十日 右第一線タル第二大隊ハ聯隊主力ニ合シテ、最初ノ戦闘

(晴後曇)

第三大隊 ニシテ意氣勃々タルモノアリ

過 戦闘經過

第二大隊ハ昨夜ノ中ニ第三大隊ノ第一線ト唐家衡附

近ヲ交代スヘキ筈ナリシカ、重點ヲ右ニ保持スル關係上交

代スルコトナク昨夜ノ線ニ展開シ先ツ西部空上及北威浜

ヲ黎明時ニ攻撃スヘク午前五時三十分攻撃前進ヲ起ス

第一線ハ夜暗ニ乘シ且巧ニ地形ヲ利用シ逐次陣前

ニ近迫セリ敵ハ當時朝食ノ準備ヲナシ我攻撃ヲ知ラ

サルモノ、如シ大隊ノ左第一線タル第五中隊ハ此ノ虚隙ヲ

看破シ全ク奇襲的ニ北威浜ニ突入ス時ニ午前六時三

ハ戰車中隊ハ明拂曉以後本道沿ヒ前進シ第一大隊ノ
董陸宅附近攻撃手ニ協力スヘシ

九野砲兵第一大隊ハ現陣地ニ在リテ午前六時ヨリ射撃手
ヲ開始シ火燒場董陸宅ノ線ノ敵陣地ヲ制壓シ第一
線兩大隊ノ攻撃手ニ協力スヘシ

特ニ董陸宅ノ陣地ヲ占領セハ逐次陣地ヲ前方ニ推進シ
其後方陣地ニ對スル射撃手ヲ準備スヘシ

砲兵隊ノ協力ニ關シテハ別ニ示ス

工兵中隊ハ明拂曉迄ニ本道最前線ニ到ル間ノ道路
補修ヲ實施シタル後第一線ノ攻撃手進捗ニ伴ヒ戰車
中隊ノ前進ニ協力スヘシ

ニ第四中隊ハ第三大隊主カト交代後寺前村ニ到リ聯隊ニ

十分ナリ敵ハ周章狼狽抵抗ノ違ナク完全ニ撃手滅セシメ
 午前右第一線タル第八中隊ハ午前九時攻撃ヲ開始シ
 午前九時四十分西部上空ヲ奪取セリ爾後引續キ火
 燒場ニ向ヒ前進ニ努メタルモ北潘涇南咸浜ヨリノ側射
 斜射猛烈ヲ極メ前進ヲ妨害セリ野砲兵第一大隊ハ
 午前六時三十分ヨリ火燒場附近ノ破壊射撃ヲ實施
 セリ午前十時五十分頃北潘涇陣地ニ制壓射撃ヲ實
 施シ其効果大ナリ午前十一時十五分頃南咸浜火燒場
 方向ヨリ約三ヶ大隊ノ敵北咸浜ニ向ヒ逆襲シ來ル第二大
 隊ハ此敵ヲ主トシテ機關銃射撃ニ依リ撃退セリ
 更ニ午後零時四十分頃火燒場方向ヨリ逆襲ノ兆候アリ
 タレハ聯隊ハ直チニ配屬砲兵ニ要求ス砲撃ノ効果大ニ

ニシテ敵ノ逆襲企圖ヲ挫折セシメタリ

二四

第二大隊ハ屢々行ハル、敵ノ逆襲ヲ撃退シ遂ニ此日ハ前進スルコトナク北咸浜西部空上ヲ確保シテ夜ニ入ル

第一大隊第一大隊ハ第三、第二中隊ヲ第一線トシテ午前五時攻撃前進ヲ起ス野砲兵第一大隊ハ午前五時三十分

ヨリ董陸宅ニ對スル破壊射撃ヲ開始ス戰車中隊ハ午前五時五十分朱家宅ニ到着シ第一大隊ノ攻撃ニ協力スルノ準備ヲナス

午前八時頃朱家宅西方五百米附近ヲ攻撃前進中敵約一ヶ大隊逆襲シ來ル大隊長ハ此ノ狀況ヲ知ルヤ第二、第三中隊ノ間隙ニ豫備隊アリシ第一中隊ヲ増加セリ第二中隊ハ再三再四繰返ス執拗ナル逆襲ヲ排

除シ遂ニ午前七時三十分頃項宅北方陣地ヲ奪取セリ
 偶々第一線ニ連絡ノ爲派遣セラレアリシ戰車中隊ノ
 一部モ逆襲ヲ發見スルヤ獨斷射撃ヲ加ヘ之カ撃手退
 ニ協力セリ戰車中隊ハ午前八時四十分重陸宅攻撃
 ノタメ先ツケ小隊ヲ戰闘加入セシメ次テ中隊主力ヲ以テ
 戰闘ニ加入ス同時頃項宅北方陣地ヲ奪取セシ第
 二中隊ハ顔十房東側本道附近ニ在リシカ左第十八
 聯隊方面ヨリ側射斜射ヲ蒙ルコト大ナリシカハ暫ク
 現在線ヲ確保シテ爾後ノ攻撃ヲ準備ス右第一線
 タル第三中隊ハ顔十房ヲ左側ヨリ包圍攻撃シ午前
 十時三十分頃占領セリ此間配屬砲兵ハ小朱宅ニ
 對シ二次ニ亙ル逆襲阻止ノ射撃ヲ實施シ第一大

ニ五

柳隊ノ
處置ノ

1920

隊ノ攻撃ニ協力セリ午後三時三十分砲兵ノ三分間ノ
集中射撃後第一中隊ハ戰車ト密接ニ協力シ午後
四時頃董陸宅東端「クリーク」ノ陣地ヲ次テ掩蓋ヲ利
用シテ頑強ニ抵抗スル小高地上ノ敵陣地ヲ奪取シ
遂ニ午後四時三十分頃董陸宅西端ニ進出セリ完全
ニ掃蕩ヲ完了セシハ午後七時頃ナリ第一大隊ノ兩側
ニ敵ヲ殘シツモ戰車ノ協力アリトハ云ヘ果敢ニ擧董陸
宅ニ進出セシハ大隊長ノ戰鬥指導ノ適切ナルト部下ノ
攻撃精神ノ旺盛ナルトニ依ルモノニシテ聯隊爾後ノ火
燒場ハ朱宅ノ攻撃ヲ容易ナラシムルト共ニ左歩兵第
十聯隊ノ攻撃ニ貢獻スルコト絶大ナリト認ム
是ヨリ先聯隊長ハ第二大隊ノ北威浜占領後攻撃

第三大隊
戰鬪經過

進捗セズ且南威浜ノ敵依然頑強ニシテ此儘ニテハ爾
後ノ突破困難ナリト判斷シ第三大隊ノ復歸ヲ旅團ニ
要請セリ旅團ヨリ直ニ復歸命令アリタルハ午後三時
長谷川中尉ヲ西沈巷ニ集結シアル第三大隊ニ派遣シ
連絡ニ任セシムト共ニ左記ノ命令ヲ下達セリ

歩兵第三十四聯隊命令於揚家宅

第三大隊ハ中第一線トナリ速ニ南威浜ヲ攻撃スヘシ

ニ野砲兵第一大隊ノ一部ヲ以テ攻撃ニ協力セシム

第三大隊ハ右命令ヲ受クルヤ第十二中隊(中隊長小澤
中尉)第十一中隊(中隊長小長井大尉)ヲ第一線ト
ナシ午後四時三十分頃攻撃ヲ起ス途中地形ヲ巧ミニ
利用シツ、逐次南威浜ニ近迫セリ午後五時野砲兵

第一大隊ハ南威浜ニ對シ制壓射撃ヲ實施シ其突ニ
 撃ヲ支援セリ第三大隊ハ此ノ砲撃ヲ利用シ果敢ナル
 突撃ニ依リ午後五時四十分南威浜ヲ占領セリ大隊
 ノ攻撃準備不充ナルニ拘ラス頑強ナル南威浜ヲ
 攻略シタルハ聯隊ノ爾後ノ攻撃準備ヲ完全ナラシメタリ
 夜ハ例ノ如ク各大隊正面數回ノ逆襲アリタルモ能ク之
 シ撃退セリ午後十時明日ノ攻撃ニ關シ左記命令ヲ
 下達セリ左歩兵第十八聯隊ハ本日泰家塘ノ線ニ
 進出セリ

歩兵第三十四聯隊命令 於楊家宅

一劉家行顧家宅ニ集合シアリシ敵ハ本日午後六時
 三十分ヨリ大型「トラック」ヲ以テ大場鎮方向ニ退却ヲ開

始セルモノ、如シ飯田部隊ハ本十三日虹口埠頭ヨリ市政
 府方向ニ向ヒ攻撃手前進中ニシテ敵ハ大場鎮方向ニ退
 却ヲ開始セルモノ、如ク江灣鎮方向ニ敵ヲ見ス（飛行機
 通報）片山部隊ハ楊家宅ヨリ鐵道線路ニ沿フ地區ヲ
 陸家橋方向ニ又第十一師團ハ羅店鎮ノ西方地區ヲ
 リ攻勢ニ轉ス天谷支隊ハ唐宅附近ニアリテ當面ノ敵ヲ
 攻撃中ナリ海軍飛行隊ハ明十四日午前七時ヨリ午
 前八時、間劉家行顧家宅十二房無電台附近
 ヲ爆撃ス砲兵隊ハ本夜劉家行顧家宅大場鎮
 ニ對シ擾亂射撃ヲ實施ス
 ニ右翼隊ハ明十四日午前六時三十分迄ニ攻撃手準備ヲ
 完了シ砲兵、攻撃手準備射撃間逐次敵ニ近接シテ

午前九時集中射撃ノ最終弾ニ膚接シテ突入シ。
 劉家行西端ノ線ニ進出スヘシ重點ヲ中央ニ保持ス敵
 若シ午前九時以前退却開始セハ機ヲ失セ急追スヘシ
 三速射砲一小隊ハ中隊主力ニ復歸スヘシ
 四戰鬥地境ノ境界ヲ左ノ如ク延伸ス
 五北威浜南端—西部火燒場南端—北店宅南端ヲ連ヌル線
 五南威浜南端—東部小朱宅南端—楊家宅北端—
 五陸家橋北端ヲ連ヌル線
 五野砲兵第一大隊ハ直協部隊並ニ射撃ニ關シ野砲
 兵聯隊長ノ區署ヲ受クヘシ
 六砲兵トノ協定事項左ノ如シ
 八各野砲兵大隊ヨリ直協歩兵大隊本部ニ午前六時
 迄ニ連絡者ヲ派遣ス

9950

2. 射撃開始ハ午前六時三十分トス

3. 各歩兵大隊ニ野砲兵一大隊ヲ協力セシテ他ノ一大隊ヲ以テ隨時火力ヲ増加ス

4. 突撃手支援射撃手

自午前八時五十分
至午前八時五十五分
自午前八時五十七分
至午前九時

第一回
第二回

第一、第三大隊正面

最終彈ハ曳火彈トシ後方陣地ノ要點並ニ第二大隊正面ニ射程ヲ延伸ス 細部ニ關シテハ大隊長ニ於テ協定スヘシ

七. 戰車中隊、工兵中隊ハ前任務ヲ續行スヘシ

八. 聯隊大小行李ハ現在地ニ位置スヘシ

九. 予ハ現在地ニ在リ明朝攻撃手ハ進捗ニ伴ヒ第一大隊ノ後方ヲ前進ス

三

下達法要旨電話後命令受領者ヲ集メ口達筆記セシムニ
野砲兵各大隊射撃實行計畫

一 直協部隊

IA 第二大隊

IIA 第三大隊

IIIA 第一大隊

IVSA 八集中射撃實施ノ外適時任務ヲ附與ス

臨機泰家塘頤家宅ノ線以北ノ左翼隊正面ヲ射撃

シ得ル如ク準備スヘシ

ニ射撃準備完了 午前六時三十分

同時試射開始ノ豫定ナルモ別命ス

ニ破壊射撃及督戰隊ニ對スル射撃

四集中射撃

午前七時三十分ヨリ午前八時二十分迄

1. 破壊射撃ハ第一次集中地點ニ對シⅢSASヲ以テ行フ

2. 督戰隊ニ對スル射撃ハ各直協地域ニ對シ行フ

使用彈數標準ⅠAⅡAⅢA各150 IVSAS 90

回次	場所	企圖担任	摘要
第一次	火燒場	ⅠA長	小朱宅、集中射撃ハ砲兵聯隊本部ニテ統制ス 企畫担任大隊長ニ於テ 歩兵大隊ト協定實施ス
同	小朱宅	ⅡA長	
第三次	楊家宅	ⅢA長	
第三次	金家灣	ⅡA長	
第四次	無電台	ⅡA長	

本日、情勢ニ依リハ敵ハ各方面共退却セル模様ナリ
楊行鎮陷落、影響ノ大ナルヲ知ル聯隊ハ本日一舉手ニ

劉家行西端ニ進出ヲ企圖シタルモ敵意外ニ頑強ニシテ
テ進捗セサリキ

本日ノ成果

敵ノ遺棄死体 六七。

九月十日 野砲兵聯隊ハ協定ニ基キ先ツ連絡者ヲ各大隊ニ派
(曇云) 遣スヘキ豫定ナリシモ第一第二大隊ハ稍派遣遅レ從ツテ
狀況

第二大隊 射撃開始ハ午前七時過トナル
過 戦闘經過

第二大隊ハ第五第六中隊ヲ第一線トシテ午前八時攻
撃ヲ開始ス 野砲兵第一大隊ハ午前八時五分前ヨ
リ火燒場北潘涇ノ陣地ニ對シ破壊射撃ヲ實施ス
敵ハ「クリーク」對岸ノ稍高キ堤防ニ堅固ナル掩蓋ヲ
有スル機關銃ヲ一連ニ配置セルヲ野砲彈モ容易

ニ効力ヲ収メス 第一線ハ砲撃ノ效果ヲ利用シテ逐次
 匍匐ニヨリ前進ヲ敢行セリ然レ共敵ハ頑強ニシテ意
 如ク進捗セサリキ

[註]

戰場ハ平坦地ニシテ遮蔽物尠シククリークヲ

遮蔽物ニ利用セントスルモ敵ハ巧ミニ縦射シテ

之ヲモ許サル狀況ナリキ

右第一線タル第六中隊(中隊長増田中尉)ハ能ク此
 困難ナル狀況ヲ克服シ正午頃北潘涇ヲ奪取セリ
 同時頃第六十八聯隊ノ第二大隊右側隊トシテ聯隊
 ノ右ニ増加スルノ通報ヲ師團ヨリ受ケタリ大隊ハ飽ク
 迄本日中ニ所命ノ線ニ進出スヘク屢々砲兵ニ破壊射
 撃ヲ要求シ且第八中隊ヲ中間ニ増加シ極力攻撃手

三五

1930

第三大隊
戰鬪經過

ヲ續行シタルモ遂ニ敵前百乃至百五十米ノ線ニ於テ大
夜ヲ徹スルノ己ハナキニ至ル

野砲兵第二大隊ハ豫定ノ如ク午前六時三十分ヨリ小
朱宅ニ對シ砲撃ヲ開始ス第三大隊ハ昨日同様ノ
部署ヲ以テ午前七時三十分攻撃ヲ開始ス先ツ直前
ノ機關銃一及若干ノ敵ヲ驅逐シテ近迫ヲ繼ケタリ
午前八時頃右中隊ハ敵前二百五十米ニ左中隊ハ小朱
前方百五十米附近ニ進出セリ此處ニ於テ大隊ハ直協砲
兵ニ對シ聯隊ハ野砲兵聯隊ニ對シ主火力ヲ以テ小朱
宅ニ對スル集中射撃ヲ要求セリ此砲撃ノ效果ヲ利
用シ左第十一中隊ハ東部小朱宅ヲ奪取セリ時ニ午
前九時四十分ナリ爾後極力攻撃ニ努メタルモ進捗セス

過 戰 闘 經

シテ日没ニ至ル

第一大隊第一大隊ハ一部ヲ以テ午前八時攻撃ヲ開始シ午後三時
東部楊木橋ヲ占領セリ
聯隊以上ノ狀況ヲ知り明拂曉ヨリ改メテ
攻撃ヲ續行スルニ決シ旅團命令ニ基キ午後十一時迄
聯隊命令ヲ下達セリ

歩兵第三十四聯隊命令 於楊家宅

一我第一線ハ火燒場東側「クリーク」ノ線ニ進出セリ飯田大隊
片山部隊ハ陳家橋盛家宅線ニ進出シ軍工路ノ連絡
成ル天谷支隊ハ吳家宅北方ニ進出セリ海軍飛行隊ハ
明日午前劉家行顧家宅附近ヲ爆撃ス旅團ハ劉
家宅金家灣舊里ノ線ニ進出シ劉家行ニ對スル攻
ミ

撃ヲ準備ス

ニ右翼隊(附)配屬ヲ解キ其他ヲ協力セシメラル其他故、如シ

ハ本夜現在地ヲ確保シ明十五日逐次敵陣地ヲ奪取シ劉家宅、金家灣、查里、線ニ進出シ劉家行ニ對スル攻撃ヲ準備セントス

三、第二大隊ハ重點ヲ右ニ保持シテ砲兵ヲ集中射撃ニ引續キ火燒場ヲ奪取シ其西北方無名部落ヲ攻撃スヘシ砲兵隊ノ協力左、如シ

ハ火燒場ニ對スル集中射撃三大隊

第一次二分間

休止三分間

第二次三分間

ハ火燒場西方無名部落及金家灣制壓一大隊

ハ右射撃ハ同時ニ行フ

三八

4 射撃時機ハ野砲兵第一大隊長並ニ野砲兵第二大隊長ニ要求スヘシ

四 第三大隊ハ成ル可ク速ニ小朱宅ヲ奪取シ砲兵ノ集中射撃手ニ膚接シ金家灣、楊家宅ヲ奪取シ次ニ集中射撃手ニ引續キ金家灣ヲ奪取スヘシ

集中射撃手ノ時機方法ハ野砲兵第二大隊長ト協定スヘシ

五 第一大隊ハ砲兵ノ集中射撃手ニ膚接シテ楊家橋ヲ奪取シ次ニ砲兵ノ集中射撃手ニ引續キ畚里ヲ奪取スヘシ
集中射撃手ノ方法時機ニ付イテハ野砲兵第三大隊長ト協定スヘシ

六 戦闘地域ノ境界左ノ如シ

左翼隊

董陸宅南端—張家宅南端—北沙宅南端

I

—陸家宅北端—連ヌル線

I

小朱宅南端—楊家宅南端

III

故、如シ

II

七、敵陣地奪取順序左、如シ

1、火燒場 2、楊木橋 3、楊家宅 4、金家灣 5、查里

ハ砲兵隊ハ全カラ以テ先ツ右翼隊ニ協力シタル後左翼

隊ニ協カス其、砲兵ノ射撃要領左、如シ

第一次 午前九時三十分 火燒場集中射撃 砲兵三ヶ大隊

同

時

火燒場西北方 無名部落 金家灣 制壓一大隊

第二次 西部楊木橋ニ集中射撃 砲兵一大隊

同時楊家宅、查里、張家宅、金家灣、制壓

砲兵四中隊集中射撃、方法ハⅠ長トⅡA
長ト協定スヘシ

第三次 楊家宅集中射撃 砲兵二大隊

同時金家灣、晝里制壓 砲兵一大隊
時機方法ハⅢ長トⅡA長ト協定スヘシ

第四次 金家灣ニ集中射撃 砲兵二大隊

Ⅲ長トⅡA長ト協定スヘシ

晝里ニ集中射撃 砲兵一大隊

Ⅰ長トⅡA長ト協定スヘシ

射程延伸ハ無電台、文衡堂及張家宅トス

細部ニ關シテハ各大隊長協定スヘシ

九、戰車中隊ハ第一大隊ノ戰鬥ニ協力スヘシ

本日ノ成果

敵ノ遺棄死体 二百

下達法 要旨ヲ電話後命令受領者ヲ集メ口達筆記セム
 注意トシテ左ノ二項ヲ達セリ

ハ飛行機ニ對シ第一線標示ヲ行コト

ニ部落ハ掃蕩スルモ成ル可ク焼却セサルコト

九月十五日 聯隊本部ハ午後朱家宅ニ前進シ戰鬥ヲ指揮ス

(晝後雨) 第二大隊ハ本日ハ是非火燒場ヲ奪取スヘク勇躍第八

第三大隊 第六第五中隊ヲ第一線トナシ午前九時攻撃ヲ開始セリ

過 戰鬪經 野砲兵ハ午前九時三十分ヨリ火燒場ニ對シ集中射撃

ヲ三分間實施セリ然レ共敵ハ昨夜ノ間ニ破壊セラレタル

掩蓋ヲ補修シ昨日同様猛烈ナル射撃ヲナシ極メテ

頑強ナリ

第一線ハ砲彈ニ膚接シテ極力前進ニ努メタルモ敵ノ射撃ハ正確ヲ極メ前進遲滞シ勝ナリ

〔註〕

當時第一線ハ敵前至近距離ニシテ僅カ頭ヲ擡ヘ敵ノ彈巢トナル狀況ナリ又第一線ノ兵器ハ連日ノ戦闘ニ依リ損傷故障多クシテ一中隊ノ如キハ僅カ輕機關銃一挺ヲ以テ戦闘シナシ
 其景況ナリキ

斯クシテ晝間ハ我火力ニ依リテ敵ヲ制壓セシ瞬時ヲ利用シテ僅カニ前進シタルノミナリ午後六時三十分頃左第一線タル第五中隊（中隊長新井中尉）ハ偶々敵後方部隊ノ左翼方面ニ移動シタルヲ發見セリ中隊長ハ好機ナリトシ自己ノ輕機關銃ヲ以テ先

ツ射撃ヲ開始シ逐次突撃ノ態勢ニ就ケリ此第五中隊活潑ナル攻撃ヲ目撃セル野砲兵第一大隊長(岡戸少佐)ハ十榴ヲ以テ獨斷突撃支援射撃ヲ開始ス大隊砲小队モ之ト同時ニ制壓射撃ヲ開始ス第五中隊ハ巧ミニ砲彈ニ膚接シツ、突撃ヲ起シ遂ニ午後七時二十分陣前ニ横ハル「クリーク」(巾約二十米深サ約一五米兩岸ノ比高約二五米)ヲ敢然徒涉シ堅固ナル機關銃地帯ニ突入セリ

註

第五中隊ノ此突撃ニ於ケル砲彈ニ膚接スル状態ハ真ニ理想的ナリキ又十榴中隊長(武田大尉)、射撃指揮ハ卓越セルモノナリキ一方大隊長ハ主力ヲ以テ火燒場北側地區ヨリ夜襲シ

第三大隊
過 戦闘経

ナスノ決心ヲナシ午後八時頃第八、第六中隊ヲ第一線
トナシ極力企圖ヲ秘匿シツ、近迫シ午後八時二十分
頃全ク敵ノ不意ニ乗シテ敵陣地ニ突入ス敵ハ虚ヲ突
カレタルニ依リ殆抵抗ノ遑ナク完全ニ大隊ノ白兵ニ依リ
殲滅セラレタリ

大隊ハ引續キ火焼場ノ部落ヲ掃蕩シ其西端ニ進
出シテ夜ヲ徹ス本日ノ戦闘ニ於テ第五中隊ノ克ク好
機ヲ看破シテ突入セルハ誠ニ適切ナルモノト認ム又大隊主
力ノ飽ク迄モ陣地ヲ奪取スヘク夜襲ヲ決行シタルハ
聯隊爾後ノ戦闘指導ヲ極メテ容易ナラシメタリ

第三大隊ハ前日同様ノ部署ヲ以テ午前九時三十分頃小
朱宅及南部火焼場ノ攻撃ヲ開始セリ

四五

過
戰
鬪
經
第
一
大
隊

第一線ハ敵ノ猛火ヲ冒シツ、一意前進ニ努メ午後零
時十分左中隊ハ小朱宅東側ノクリーク^{南岸}ノ陣地ニ突入シ
該地ヲ占領シ爾後ノ突撃ヲ準備ス午後四時頃
砲兵ハ小朱宅ニ對シ集中射撃ヲ開始ス其効果極
メテ大ナリ左中隊ハ此ノ砲撃ヲ利用シ果敢ニ突撃ヲ
起シ先ツ「クリーク」西岸ノ陣地ヲ次テ小朱宅東端ノ陣
地ニ突入セリ時ニ午後四時三十分ナリ爾後逐次部落ヲ
掃蕩シ之ヲ完全ニ占領シタルハ午後六時三十分頃ナリ
右中隊ハ左中隊ノ進捗ニ伴ヒ逐次近迫シ午後五
時頃南部火燒場ヲ奪取セリ

第一大隊ハ南部ノ小朱宅ニ於テ楊木
橋ヲ奪取スヘク企圖シ午前十時頃攻撃ヲ開始ス

當時小朱宅及左歩兵第十八聯隊正面ヨリノ斜射側
射猛烈ヲ極メ大隊ノ前進ヲ著シク妨害セリ然レ共
第三、第一中隊ハ巧ミニ地形地物ヲ利用シ各種火器
支援ノ許ニ逐次猛射ヲ冒シ、極力前進ニ努メ野
砲兵第三大隊ノ有効ナル砲撃ヲ利用シ午後三時三
十分西部楊木橋ヲ占領セリ

本隊ノ之ヲ先第三中隊ニ南部小朱宅ノ攻撃ヲ命
ジタリ第二中隊ハ之亦在古ヨリ猛射ヲ排シテ近接シ
遂ニ薄暮ヲ利用シテ之ヲ突入シ完全ニ掃蕩シ

ハ午後七時頃ナリ

第一大隊ノ克ク側背ヲ暴露ニツモ突破ヲ敢行シ楊
木橋ヲ奪取シタルハ聯隊ノ爾後ノ攻撃ヲ容易ナラシメ

戰鬪
成果

メタルモント認ム

聯隊砲速射砲ハ本戰鬪間各大隊長ノ指揮下
ニ在リテ克々第一線ニ協力シ大隊ノ攻撃ヲ容易ナラ
シメタリ

聯隊ハ火燒場、小朱宅、楊木橋ノ線ヲ攻略ニ三日ヲ
要シタルモ既設ノ堅固ナル築城地帯ニ依レル第三
十二師ヲシテ再ヒ立ッ能ハサラシメタルノミナラス左歩兵
第十八聯隊ノ攻撃ヲ容易ナラシメタリ是實ニ各大
隊ノ旺盛ナル攻撃精神ト各種大砲及協力砲兵ノ
適時適切ナル協カトニ依ルモノト信ス
聯隊ハ本夜奪取セル陣地ヲ確保シ金家灣、楊家
宅、峯里ニ對スル攻撃ヲ準備ス

四八

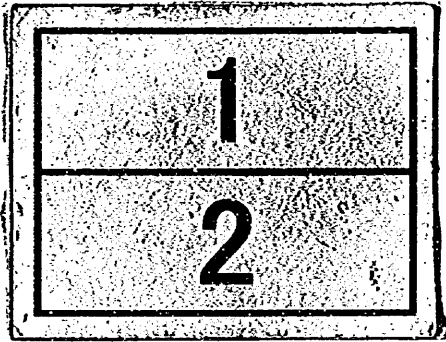
0274

本日、戦闘ニ於ケル、成果
敵ノ遺棄死体 約二千
本戦闘經過別紙要圖第二、如シ

50

1472

分割撮影ターゲット

分割した 部 分 の 撮 影 順 序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文書等名	火焼場小朱宅楊木橋付近 戦闘経過要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

1473
1474

別紙第二

Second

Right

Left

18i (-I)

12/9

13/9

14/9

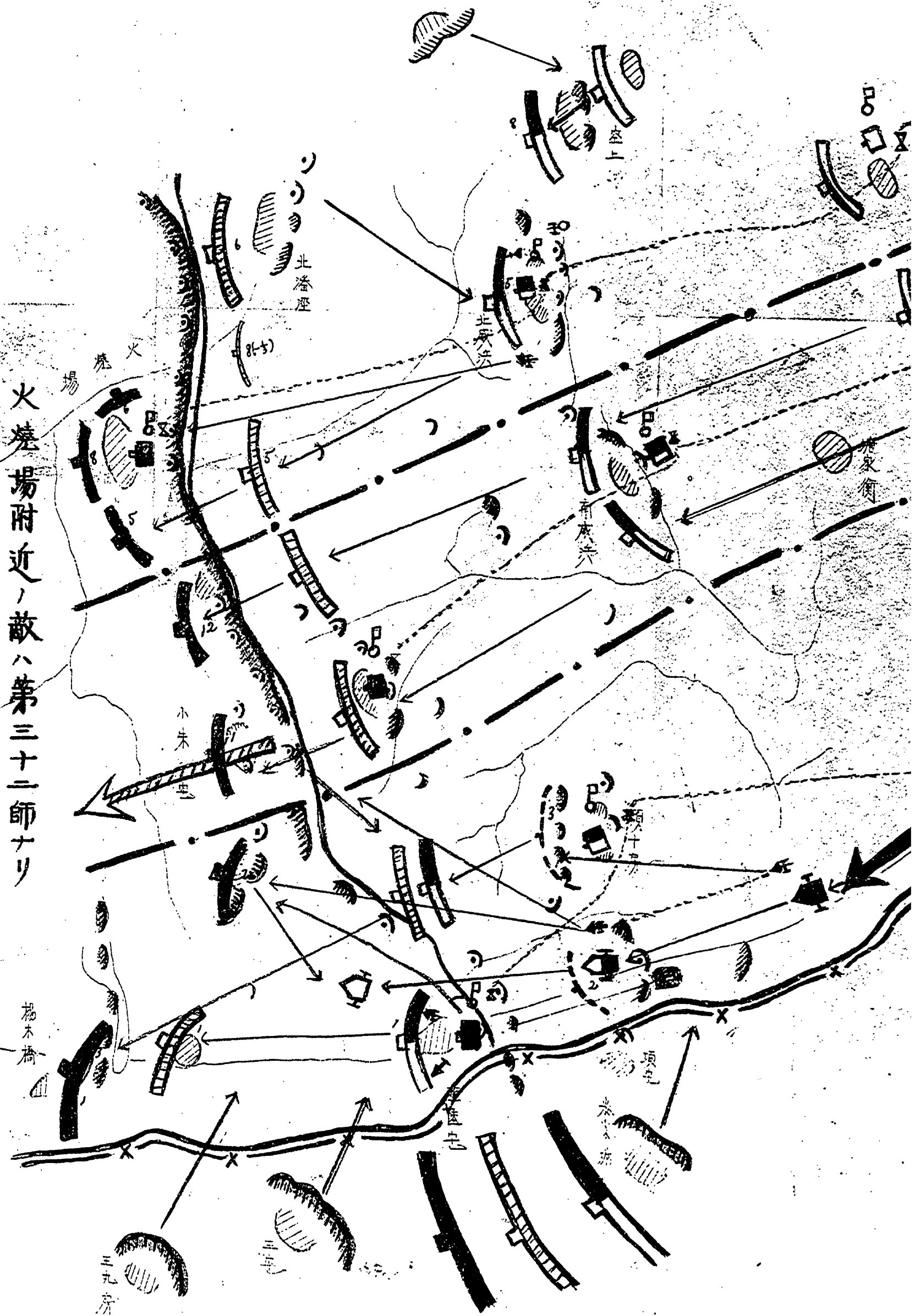
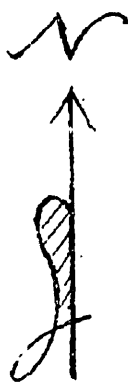
15/9

51

2~3/

0275

(問 ル 豆 二 日 五 十 月 九 日) 三 日 三

$$\frac{1}{6000}$$


火燒場附近ノ敵ハ第三十二師ナリ

0220